

(2) 郷土資料の収集

郷土資料の収集には、今年度も力をいれた。復刻版のなかに、「会津鑑」「樂翁公伝」「未来ふくしま」などがある。

今年度に収集した郷土資料のなかには、「岩崎敏夫著作集」、「相馬原釜漁業協同組合史」「雪村」「福良窯」等の労作が含まれている。

県人文庫としては、「民俗芸能の研究」(本田安次)ほかを入手した。

さらに昭和56年度から引きつづいて、財福島県文化振興基金で助成された図書が寄贈され、このなかには、「歴史春秋17号」「松平定信」「新福島の和算」「小野町の民謡」「櫛郎句集」等がある。

(3) 新館用図書の収集

新館用図書として、基本図書・参考図書・児童図書の研究書等を12,600冊収集した。

基本図書の一部に、「密教研究」「奈良平安時代の文化と宗教」「韓国古代史研究」「朝鮮史」「ロシア史」「政友」「西欧政治思想史」「爆発する大都市」「都市選書」「戦後地方行政財政資料」「アイヌ史資料集」「教育思潮研究」「核酸化学」「原子力エネルギー変換」「草地農業論」「植物の耐凍性と寒冷適応」「育種学」「地場産業の発達」「水産学シリーズ」「美術研究」「美術新報」「日本仏教芸能史研究」「日本古代の伝承文学の研究」「万葉集の諸相」「源氏物語の思想」「日本漢詩」「韓国古典文学選集」等がある。

参考図書には「空海大字林」「統計集誌」「大正期鉄道資料」などを含んでいる。

児童図書の研究資料には「日本児童問題文献選集」「児童研究」などの資料がある。

2 図書館資料の整備

(1) 資料の収集

新館用図書の収集については、資料的な単行本を中心とし、部門別では、これまで収書の少なかった自然科学・工学・産業部門について、産業部門では特に農業関係図書の収集に努力した。雑誌の復刻されたものの収集についても留意した。

逐次刊行物（雑誌類）については、各部門の専門誌を整備して欲しいという要望がよかったです。利用の少ないものおよび休刊となったもの、計13誌の更新にとどめた。これはこれまでのバックナンバーの蓄積を大事にしたいということでもある。

(2) 特殊文庫について

中島文庫および佐藤清太文庫の整理作業を進めた。

(3) 視聴覚資料の収集について

郷土資料としての視聴覚資料を収集したが、レコードの主なものに、「伊藤久男全集」「鈴木正夫民謡ベストアルバム」、フィルムの主なものに、「相馬をよみがえらせた富田高慶」「百年を流れる安積疊水ファンダーラン」、ビデオテープの主なものに、「桧枝岐歌舞伎」「金沢（福島市松川）羽山ごもり」などがある。

(4) 藏書目録の作成について

増加図書目録（昭和56—57年度）、これは整備用図書を含むもので、印刷用原稿、本文14,365枚、索引37,827枚の作

成をおこなった。

第3節 館内奉仕

概要

公共図書館の奉仕は、幼児から高齢者までを対象に、だれでも、いつでも、どこでも、気軽に図書館資料が利用できるよう配慮し、多様化する住民の情報要求に応えていくことである。

館内奉仕は、奉仕活動の一つであって、施設内での奉仕を主とし、直接来館した利用者が対象となる。業務の内容は、館内閲覧（図書館が所蔵する全資料を対象とする）、調査相談（利用者の研究・調査を援助する）、資料の複写、展示などである。

さらに、直接来館できない利用者に対しては、電話や文書での調査相談、資料の複写などの要求にも応じている。また、当館所蔵資料の利用要求に対しては、相互貸借によって利用の途を開いている。

本年度の利用状況等は次のとおりであるが、新館への移転準備等のため、2月28日をもって貸出を中止した。また、この統計には、簡易な調査相談や自由閲覧資料（一般図書、参考図書、新聞、雑誌、児童図書、特許公報類などの公開資料）の利用は含まれていない。

開館日数277日（内貸出日数252日）、調査相談件数1,094件、館外貸出登録者数5,292人、館外貸出利用冊数84,460冊、館外貸出利用者数27,892人、館内利用冊数21,837冊、館内利用者数4,987人、特許関係相談件数176件、相互貸借件数52件、特別貸出件数299件、複写件数2,670件。

1 図書の利用

(1) 調査相談

研究・調査についての資料調査や相談、生活や仕事上の参考質問に対して資料・情報を提供する調査相談業務は、今後ますます強化されなければならない。それには、これに対応する専門職員の配置と定着化、質的向上ならびに豊富な資料の収集が基本的な要件となる。

調査相談業務は、直接来館した利用者からの依頼と、直接来館できない利用者からの電話、文書による依頼をうけて、参考文献の紹介、図書館資料の検索、専門機関等についての情報提供、利用上の協力などを行っている。

本年度の調査相談の処理件数は表〔2、3〕のとおりである。

(2) 館内閲覧

館内閲覧は、一般資料、郷土資料、参考図書、新聞、雑誌、特許公報類、マイクロ資料、児童図書など、図書館が所蔵するすべての資料を対象に行っている。

本年度の利用状況は表〔3、4〕のとおりである。

館内閲覧のために、本年度は次の閲覧室を設けている。

(イ) 成人閲覧室	24席
(ロ) 参考図書閲覧室	26席